

学校教育目標

- 豊かな心
自他共に大切に作る豊かな心と愛情の育成
- 高い志
高い志と、困難に打ち克つ熱意の育成
- 確かな力
たくましい心身と、将来に向けた学力の育成

地域・児童の実態

- 基礎的・基本的な学力及び基本的な生活習慣が身に付いている児童が多い。
- 学校運営協議会や学校支援地域本部を中心に、町会等地域からの協力を得ることができる。

学校経営方針 ～学力向上にかかわる要点～

- 「どの子ども伸ばす、駒本の教育」を主題とし、インクルーシブ教育システムの構築・発展を目指す中で、特別支援教育をベースとした授業のユニバーサルデザイン化や、個に応じた支援の充実を目指す。
- 確かな学力を育成するために、全授業で問題解決型の授業形態への授業改善を推進し、授業のユニバーサルデザイン化の5つの視点である「構造化」「視覚化」「焦点化」「共有化」「意欲化」を取り入れる。
- 基礎学力の充実を目指し、思考力・判断力・表現力を高め、問題解決能力を向上させる。
- 様々な問題解決場面において協働し話し合い解決することができるよう論理的な思考力を育成し、あわせてプログラミング教育を推進する。
- 主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。
- 読書活動を推進し、読書を通して情操や感性をはぐくみ、学ぶ楽しさを味わわせ、主体的な学習態度を育成する。朝読書、読み聞かせ等の取組を積極的に行う。
- 駒本スタンダード（学習編）の指導内容を全教員で共通理解し、学習規律を徹底させる。

学校としての授業改善の視点

<授業のユニバーサルデザイン化の5つの視点>

「構造化」

- ・問題解決型の推進による授業改善を行うために、「つかむ」「考える」「学び合う」「まとめる」の4つの学習過程を取り入れた授業の構造化を行う。また、各学習過程を児童にも意識させる工夫をする。
- ・授業の始めにルーティン化されたウォーミングアップを行い、学習への気持ちの切り替えを図り、継続して行うことで基礎的な力を効果的に高めるようにする。
- ・学習計画を掲示し、学習の見通しをもち、どの段階を学習しているかを明確にする。

「視覚化」

- ・音声指示とともにイラスト表示を使用したり、各学習過程でタイムタイマーを用いたりするなどして視覚支援を取り入れた授業を行う。ICT機器の積極的活用にも取り組む。
- ・めあてや課題を工夫して掲示し、常に意識できるように工夫をする。

「焦点化」

- ・学習課題を明確に示し、児童にとって学習活動の見通しがもてる授業を行う。課題を研ぎ澄まされたものにする事で、45分間で課題解決が図れるよう、無駄のない学習活動を組み立てる。
- ・学習課題は「意欲が喚起される」「具体性がある」「複数の考えがもてる」「思考過程を重視している」ものとなるよう工夫をする。
- ・ワークシートの内容の精選を通して、自己の課題を明確にし、見通しをもって学習に取り組めるよう工夫する。

「共有化」

- ・ペア学習、グループ学習、全体発表などで「共有」「比較」「検討」ができるよう学び合いの活動の工夫をする。
- ・意図的指名や板書の工夫をし、大切なことを意識させ、共有させるように工夫をする。

「意欲化」

- ・児童の学習の状況を見取り、即時評価を行うなどして児童の意欲を高める工夫をする。
- ・見取りに基づく個別の支援や声かけを行う。
- ・ウォーミングアップ活動を授業のはじめに取り入れ、児童の気持ちを学習に切り替え、意欲を高める。

<基礎学力の充実と問題解決能力の向上>

- ・論理的に考え、根拠を明確にして判断し、分かりやすく伝えられる児童を育成するために、論理的思考方法活用表を作成し、全教科・全領域の授業での活用と検証する。
- ・ドリルやプリントを用いた繰り返しの学習と東京ベーシックドリル等の活用により、児童一人一人の基礎学力の定着を図る。
- ・児童が、自ら課題を見だし、解決する意欲をもち、興味・関心がもてるような教材づくりや授業づくりをする。
- ・児童同士の対話、教師と児童の対話、自己内対話をする時間を確保し、考えを深める授業構成をする。

<読書活動の推進>

- ・週5回一斉に読書タイムに取り組み、積極的に読書に向かう態度を育てる。月1回程度の図書ボランティアの読み聞かせを行い、様々な本を紹介してもらい、読書の幅を広げたり、質の向上を図ったりする。
- ・学校図書館支援員と連携し、授業で使用する図書の依頼や相談を行い、図書資料の効果的な活用を図る。
- ・各教科において、並行読書、調べ学習への活用など、単元に関連する本がすぐに手に取れる環境を整える。

<駒本スタンダード（学習編）>

- ・駒本スタンダード（学習編）を全教室に掲示し、全ての教科において「授業の始めと終わりのあいさつ」「正しい姿勢」「学習用具の準備」「ノートには下敷きを敷く」「発表する時のルール」などの学習規律を定着させるための具体的指導を行う。

各学年の授業改善の視点

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
国語	<p>○平仮名・片仮名・漢字を正しい姿勢、鉛筆の持ち方、正確な筆順や字形で書けるよう活動をスモールステップ化・定型化し、繰り返し指導する。</p> <p>○漢字の定着のため、当該漢字を網羅した漢字テストを手作りし、計画的に実施する。</p> <p>○大事なことを落とさずに最後まで聞き、すすんで話せるように、対話（話す・聞く）活動に積極的に取り組んでいく。また、読み取りの授業では、「なぜそう思ったか」理由も発表させることで論理的思考力の向上を図る。</p>	<p>○正確な筆順や正しい文字の形で書けるよう視覚化・焦点化した授業を継続し、書き順を示した漢字を教室掲示し、確認できるようにする。また、漢字の小テストなど定期的に行い定着を図る。</p> <p>○順序を考えた話し方ができるよう話型を示した補助教材を取り入れていく。また、学び合いの時間を充実させ、目的に応じた表現ができるように話型を示すとともに、練習する時間を十分に確保する。</p>	<p>○毎時間漢字を学ぶ時間を設定し、効率よく確実に身に付けられるようにする。その際、辞書で意味を調べたり、ミニ漢字テストをしたりといった工夫をする。</p> <p>○友達と相談しながら学習をすすめたり、対話を通して自分の視野を広げたりすることができるようにする。</p> <p>○授業の流れや発表の話型を提示し見通しをもって考えさせることで学び合いの時間の質の向上を図る。</p>	<p>○漢字の学習や小テスト、辞書を使った言葉の意味調べ等を繰り返し行い、基礎学力の定着を図る。</p> <p>○自分の考えの根拠を明確にして表現させることを通して、論理的思考力の向上を図る。</p> <p>○主体的に考えたり、伝えようとしたりする力を向上させるため、話し合いの目的や条件を明確にしたり、話型を提示したりする。</p>	<p>○言葉を正しく理解したり表現したりする技能を高めるため、ノートやワークシートに学習課題や計画、学習のまとめを書くことを大切にする。</p> <p>○焦点化された学習課題を提示し、根拠（叙述）を明確にして説明させることで、論理的思考力の向上を図る。</p> <p>○伝え合う力の向上のために「学び合い」の時間を特に充実させ、目的に応じた学習形態や話し合いの方法の理解と習熟を図る。</p>	<p>○文字を正しく理解したり考えを表現する技能を高めたりできるように、学んだ知識を活用できる場面を設定する。</p> <p>○根拠を明確にして表現させる活動を通して、論理的思考力の向上を図る。</p> <p>○言葉に着目させ、言葉による見方・考え方を働かせる学習活動を展開する。</p> <p>○学習課題や計画を児童の発想から作り上げる活動などを通して、学びに向かう力を育成する。</p>

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
社会			<p>○地図帳を活用したウォーミングアップを行い、資料活用能力や基礎的な知識の定着を図る。</p> <p>○地域社会や地域の人々の生活を見学・調査・体験しその様子や工夫、努力について考えさせ、地図や新聞等に表現する活動を重視する。</p> <p>○地図や様々な資料から必要な情報を読み取る活動を多く取り入れ、資料を基に考える力を身に付けさせる。</p>	<p>○ウォーミングアップの中で、地図帳を用いて都道府県クイズを出し合うことで、資料活用能力の向上を図る。</p> <p>○社会に見られる課題の解決に向けて、社会への関わり方を考えて表現する活動を通して、論理的思考力を育成する。</p> <p>○問題解決的な学習過程を充実させることで、社会的事象について、主体的に問題解決しようとする意欲を高める。</p>	<p>○情報活用能力を育成するために、目的に応じて情報を適切に取捨選択し、まとめる学習活動を展開する。</p> <p>○我が国の国土や産業に関する資料を効果的に活用し、社会的事象の意味について考える力、調べたことと自分の考えを明確にしながら表現する力を身に付けさせる。</p>	<p>○情報活用能力を育成するために、目的に応じて情報を適切に取捨選択し、まとめる学習活動を展開する。</p> <p>○社会に見られる課題の解決に向けて、資料等を根拠にして自分の考えを説明する学習活動を通して、論理的思考力を育成する。</p> <p>○社会的事象について主体的に学習の問題を解決しようとする意欲を高めるために、課題提示や資料提示の工夫を行う。</p>

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
算 数	○数カードや算数ブロック等の半具体物を活用し、操作活動を通して、学習の理解を深められるようにする。 ○算数的活動を通して、学習の理解を深められるようにする。継続的にノートに書く学習を通して、筋道を立てて考える力の定着を図る。	○学習の理解を深め、思考力を高めるため、数カードや算数ブロック・模型時計等、半具体物の操作活動を計画的に取り入れる。 ○「考える」では自分の考えをまとめ、「学び合う」では、自分の考えを発表したり、友達の考えと共有・比較したりする。思考力を高めるため、一人一人自分の考えを図や言葉を使ってノートやワークシートに書けるように支援していく。	○ICT機器を活用し、授業内容を視覚的に理解しやすくしたり、具体物や半具体物を使って操作させたりすることによって数や量に関する感覚を育てる。 ○「考える」場面は根拠を重要視する。そのために図や表、言葉などを使って、一人一人自分の考えをノートやワークシートに書けるよう支援していく。	○ICT機器を活用し、授業内容を視覚的に理解しやすくしたり、グラフや数直線を使って表現したりすることによって数や量に関する感覚を育てる。 ○「考える」「学び合う」場面では自分の考えや友達の考えを式に表したあとで、その式の意味を言葉で説明するために、ノートやミライシードの話し合いツールなどに説明が書けるよう支援していく。	○ICT機器を活用し、授業内容を視覚的に理解しやすくしたり、個に依りて数直線や関係図を用いたりすることにより、数や量に関する感覚を育てる。 ○比較、手順化、理由付けなどの論理的思考やそれぞれに適したツールを使って問題解決をさせることを通して、論理的思考力を育成する。	○少人数指導により、個に応じた指導や支援の工夫を行い、数量や図形についての基礎的・基本的な概念や性質の理解を、より確実なものにする。 ○比較、手順化、理由付けなどの論理的思考やそれぞれに適したツールを使って問題解決をさせることを通して、論理的思考力を育成する。 ○数学的処理の良さに気づき、学びに向かう力を高められるように、課題提示や資料提示の工夫を行う。

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
理 科			○理科に対する興味関心を高めるために問題解決的な学習の流れを取り入れる。具体的な課題を設定し、追究することで理科の学習内容をよりよく身に付けられるようにする。 ○実験を充実させる。体験を通して学べるよう、実験方法を工夫する。さらに、学んだことを生かした発表会や作品作りなども取り入れる。	○予想を立てる根拠の3要素（既習事項・生活体験・共通体験）を提示し、それを基に根拠のある予想を持たせるように支援する。 ○実験結果を正確に記録し、複数のグループの結果を共有して整理することによって考察を促すようにする。 ○考察の書き表し方のフォーマットを示し、問題に対する答えを実験の結果（事実）を根拠にして書く力を育成する。	○学習問題の設定、仮説、実験、予想、結果、考察、結論という一連の学習の流れをルーティン化することで、自然の事物・現象についての理解を深めたり、観察・実験の技能を高めたり、論理的思考力を育成したりする。 ○条件に着目させて自分で実験方法を考えられるようにするために、考察の書き表し方を示し、予想に立ち返って考察を行う支援をすることで、論理的思考力を育成する。	○学習問題の設定、仮説、実験、予想、結果、考察、結論という一連の学習の流れをルーティン化することで、自然の事物・現象についての理解を深めたり、観察・実験の技能を高めたり、論理的思考力を育成したりする。 ○実験の方法等を考えさせることで、学びに向かう力を高めさせる。

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
生 活	<p>○活動や体験を多く取り入れ、その楽しさを存分に味わわせる。植物教材を校庭の植栽を有効利用したり育てたりする。</p> <p>○様々な活動後、活動で気付いたことを表現したり、考えたりできるように、時間の余裕をもった学習計画を立てる。</p>	<p>○学習課題を共有させ、学習の見通しをもたせて、構造化された学習過程に沿った活動や観察、体験を取り入れることで学習を深める。</p> <p>○活動の中での気付きや学びを表現したり考えたりできるように、時間に余裕をもった学習計画を立てる。</p> <p>○学習発表会などを目標として、表現する力を高めていく。</p>				

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
音 楽	<p>○楽しく学習に取り組めるように、体を動かしながら音楽活動をしたり、友達と協働しながら、考えを共有・共感したりする環境を整える。</p> <p>○音楽から知覚・感受したことと音楽の要素との関わりについて気付けるようにする。</p>	<p>○楽しく学習に取り組めるように、体を動かしながら音楽活動をしたり、友達と協働しながら、考えを共有・共感したりする環境を整える。</p> <p>○器楽での技能指導では、演奏のポイントをわかりやすく整理し、視覚化しながら指導する。</p> <p>○音楽から知覚・感受したことと音楽の要素との関わり合いについて気付けるようにする。</p>	<p>○進んで学習に取り組めるようにするため、児童が取り組みたくなるような学習課題を設定する。また、リコーダーの学習では、上達のポイントを明確にし、できたことを実感できる課題にすることで意欲化を図る。</p> <p>○音楽を知覚・感受して、曲にふさわしい音楽表現を試しながら、どのように表現するかについて思いや意図をもつことができるように児童の考えに価値付けをする。</p>	<p>○進んで学習に取り組めるようにするため、児童が取り組みたくなるような学習課題を設定する。</p> <p>○音楽を知覚・感受して、曲にふさわしい音楽表現を試しながら、どのように表現するかについて思いや意図をもつことができるように児童の考えに価値付けをする。</p>	<p>○主体的に学習できるようにするため、児童が取り組みたくなるような学習課題を設定する。</p> <p>○音楽を知覚・感受し、どのような音楽表現をするのかについて思いや意図をもち、自分たちの表現に生かしていく。その際、相手に伝わるような表現になっていくように、児童の表現や考えに価値付けをしながら進める。</p>	<p>○主体的に学習できるようにするため、児童が取り組みたくなるような学習課題を設定する。</p> <p>○音楽を知覚・感受し、どのような音楽表現をするのかについて思いや意図をもち、自分たちの表現に生かしていく。その際、相手に伝わるような表現になっていくように、児童の表現や考えに価値付けをしながら進める。</p>

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
図画工作	<p>○材料の良さを感じながら自分の想いを広げ、やりたいことを見つける場面を設定する。</p> <p>○クレヨンや粘土に親しみ、のりはさみ、テープなどの道具を正しく使えるようにする。</p>	<p>○材料の良さを感じながら自分の想いを広げ、やりたいことを見つける場面を設定する。</p> <p>○カッターを安全に使えるようにして造形の可能性を広げる。</p>	<p>○材料の良さを感じたり友達と関わったりしながら自分の想いを広げ、自分のテーマを表そうとする場面を設定する。</p> <p>○新しい道具や材料として釘、金づち、のこぎりを安全に使えるようにして、造形の可能性を広げる。</p>	<p>○材料の良さを感じたり友達と関わったりしながら自分の想いを広げ、自分のテーマを表そうとする場面を設定する。</p> <p>○新しい道具や材料として彫刻刀を使用する。刃物の扱いには徹底した安全指導を行う。新しい表現を可能にするために、安全に楽しく使えるようにして造形の可能性を広げる。</p>	<p>○教師の提案、友達との意見交換（相互評価）など活動に関する多くの情報の中や材料などから自分に必要な情報を選択し、自分の想いを見つめたり、深めたりしながら自分のテーマを表そうとする姿を育てる。</p> <p>○新しい道具として電動糸のこぎりやペンチを使用する。道具の扱いに注意し、安全に楽しく使えるようにして造形の可能性を広げる。</p>	<p>○教師の提案、友達との意見交換（相互評価）など活動に関する多くの情報の中や材料などから自分に必要な情報を選択し、自分の想いを見つめたり、深めたりしながら自分のテーマを表そうとする姿を育てる。</p> <p>○今までの経験を生かして、材料や道具を選び、技能を生かす応用力を養う。</p>

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
家庭					<p>○ウォーミングアップとして、基礎的な知識の確認や針と糸を使ったトレーニングを行う。</p> <p>○縫い方や切り方の指導は、実物もしくは拡大したものを使って行う。</p> <p>○縫い方や切り方の動画や写真を各自が確認できるような環境を整える。</p>	<p>○ウォーミングアップとして、基礎的な知識の確認や針と糸を使ったトレーニングを行う。</p> <p>○縫い方や切り方の指導は、実物もしくは拡大したものを使って行う。</p> <p>○縫い方や切り方の動画や写真を各自が確認できるような環境を整える。</p>

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
体育	<p>○毎時間、活動の流れとねらいを明確にし、児童が主体的に活動できるようにする。</p> <p>○工夫している児童やペア、チームの動きを全体で共有することで、意欲が高まるようにする。</p>	<p>○ゲームの学習において、ルールを工夫することにより、技能や体力の差があっても、どの子も運動が楽しめるようにする。</p> <p>○ペア活動を積極的に取り入れ、動きを見合ったり、良いところを伝え合ったりする活動を通して、互いに向上しようとする態度を育成する。</p>	<p>○運動技能を高めるために、場を工夫したり、グループ数を調整したりして、運動時間を確保する。また、技能のポイントを明確にした学習カードを使用する。</p> <p>○楽しく運動に取り組めるように運動のルールを工夫する。ゲームに参加する人数や跳び箱の場の数などを工夫することで、運動に親しみをもてるようにする。</p>	<p>○ゲームの学習において、ルールを工夫することにより、技能の差があってもゲームの相に合わせた動き方を考え、積極的に運動を楽しむことができるようにする。</p> <p>○器械運動、陸上運動において、学習カードに技のポイントを明確に提示して学び合いの時間を確保し、練習の仕方を工夫したりICT機器を用いてアドバイスをし合ったりして体育的思考力の向上を図る。</p>	<p>○自己の課題を見つけてその解決の方法を工夫したり考えたことを伝え合ったりするために、動画や学習カードを用い教え合ったり練習する場を工夫する。</p> <p>○どの子も運動の楽しさや喜びを味わうことができるように、ゲームの学習においてルールを工夫することにより、技能の差に関わらず動きを考えたり身に付けたりすることができるようにする。</p>	<p>○各種の運動や自己の健康について自分なりの課題をもち、主体的に学習できるように課題提示や資料提示の工夫を行う。</p> <p>○個々の技能向上のために、手本動画提示や動画撮影などICT機器を積極的に活用する。</p> <p>○グループでは、ルールや練習の工夫、作戦等について話し合わせる等、協働学習を行わせる。</p>